

第一節 昭和二十一年

① 学事抜粋

昭和二十一年

三月 男女共学制実施、予科復活。

四月二十三日 合格発表。

五月十日 入学式。

同月 疎開品還帰展覧会開催。

七月三日～十一日 校友会主催芸術講座開催。

七月二十日～九月二十日 飛騨高山夏期研究会実施。

十月十七日～三十一日 生徒五十八名、正倉院宝物および奈良・

京都古美術見学を行う（前田泰次引率）。

十一月七日～十三日 第一回芸術祭開催。

② 職員動静（主に「辞令簿」による。）

昭和二十一年

一月三十一日 嘱託山田廉、岡岡四郎は依願解嘱となる。鈴木信

一（昭和十七年鑄金部卒）は講師を嘱託され、鑄金部実習授業担当、工芸科教室兼務を命ぜられる。書記浦野双観、東京聾啞学校書記に転任。

二月五日 文部省国史編修院廃止につき、編修官兼同省国宝鑑査官田山信郎は本校教授に任命される。

同月二十日 書記佐々木一郎、依願免本官となる。工芸技術講習所書記山川猛は本校書記兼務を命ぜられる。

同月二十八日 田中芳郎（昭和十四年彫金部卒）は鍛金部授業担任講師を嘱託される。

同日 山崎覚太郎は依願免本官、免兼官となる。

三月六日 兼任教授佐藤得二は文部省社会教育局長となる。

三月十一日 助教授金沢庸治は依願免本官となる。

三月二十七日 多賀工業専門学校教授西本順は本校教授に任命される。

四月一日 勅令第一九〇号官吏任用叙級令により上野直昭および石井鶴三その他教官は文部教官に任命される（これ以後逐次文部教官の任命が行われたが、記載は省略する）。

四月二十日 小塚新一郎は生徒課長を免ぜられ、西本順が後任に任命される。

同月三十日 吉野富雄は講師を嘱託され、漆工部勤務を命ぜられる。

同日 伊藤廉は講師を嘱託される。

同月八日 教授西田正秋は予科長を命ぜられる。

同月三十一日 第一高等学校教授麻生磯次は国文学担任講師を嘱託される。嘱託橋本統陽は依願解嘱となる。

六月十二日 文部教官羽野禎三は本校教授に補せられる（同月十四日、石川県工業学校長に転任）。

同月二十二日 講師吉田五十八は教授に任命される。

同月二十四日 教授小塚新一郎は依願免本官となる。

